

# 防災イベントに関する調査研究

-横浜市における防災イベントの情報提供と事例調査-

山家研究室 200402574 菊田 勝順

## 1. はじめに

わが国では近年、地震・津波など自然災害が多発しており、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震が記憶に新しいところである。このような災害が続く現状の中、地域防災に対する関心が高まってきている。だが、防災に対しての個人意識の違い、環境と様々な原因があり、地域防災として機能するには課題がある。情報を得る機会が、個人で異なるのは当然だが、いざ災害時に行動する対応能力に、日頃の防災情報に関する機会が大きく関係することは言うまでもない。

本研究は、自主防災組織に加入していない、あるいは日常において防災活動に携っていない人への情報提供を問題意識とし調査を行った。防災に関連した情報について、実際に限られた地域に住民へどのような情報がどの程度公開されているかを調査し、情報発信のこれからの課題や可能性を検討するものとする。また実際に行われている防災関連の活動の調査から、防災活動の情報公開、防災イベントの役割を示すことを目的とする。

## 2. 防災に関する情報提供についての調査

### 2-1. 調査方法・結果

【方法】調査対象を「広報よこはま」横浜市内の全区とし、広報よこはまのホームページから各区に掲載されている広報について情報の内容や、その件数を調査する。調査期間は平成15年4月～平成19年9月とする。

【結果】防災関連の記事はいくつかの種類に大別される。一般的な分類方法は存在しないが、本節では、広報の調査結果を次の①～③の3種類に分ける。

#### ① 防災イベント告知：

防災知識の普及や防災訓練に役立つような要素を含むものを防災イベントとし、そのイベントが実際に行われる日程などの告知を目的としている記事を指す。

#### ② 各家庭への防災啓発：

日頃からできる家庭での災害対策の内容の記事を指す。また、防災活動の紹介記事も加える。

#### ③ 行政政策の情報提供：

各区の施策運営方針の概要を含む記事を指す。防災に関する内容が含まれているものに限り、計数するものとする。

「広報よこはま」の調査結果による防災関連の記事件数を図1に示す。

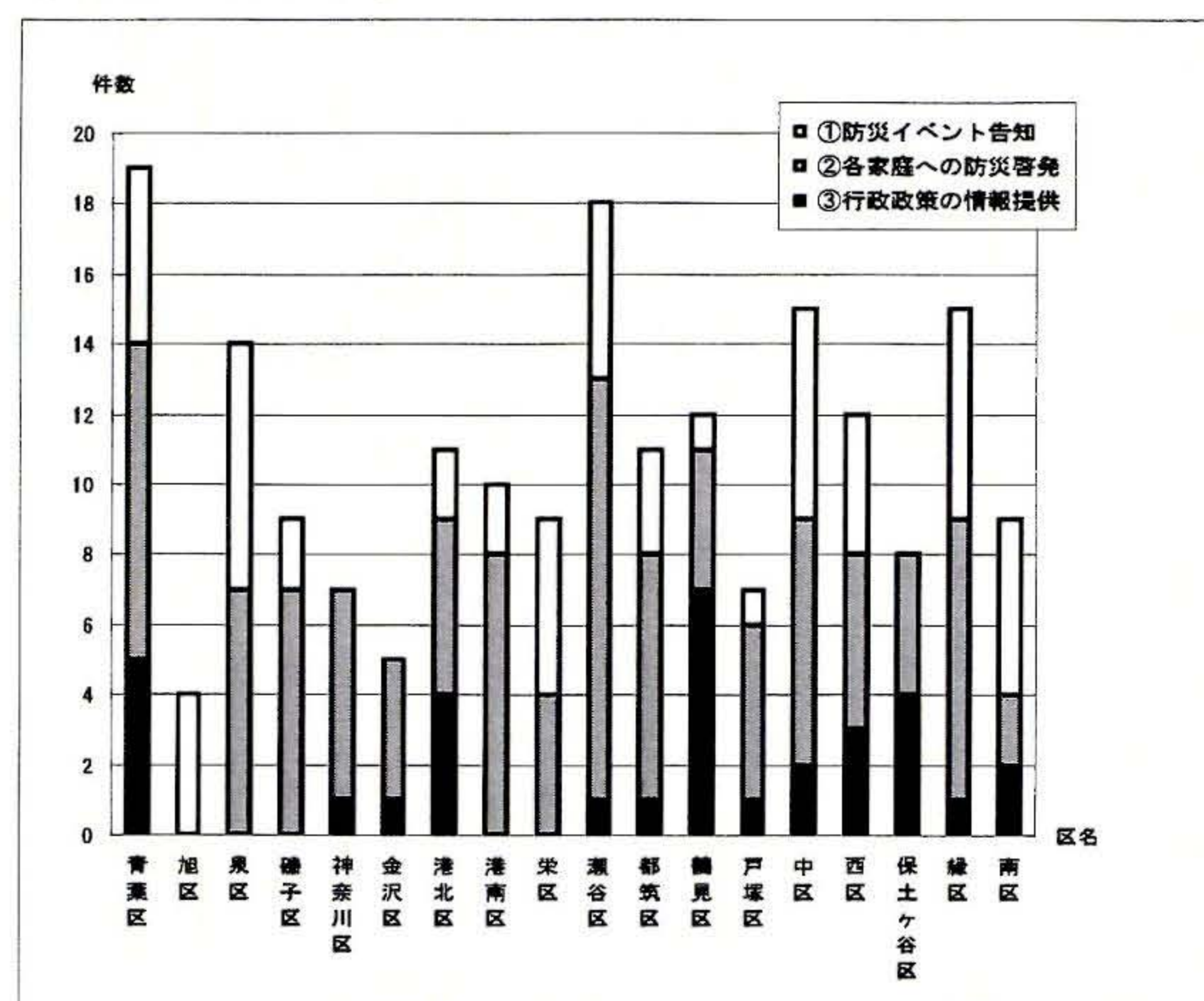


図1. 横浜市各区の広報記事分類とその件数 (平成15年4月～平成19年9月)

### 2-2. 考察

上記の調査期間において、横浜市全体では防災に関連した記事は全部で192件である。防災に関連した記事の件数が一番多いのは19件で青葉区であり、次いで18件の瀬谷区である。反対に防災に関連した記事の件数が一番少ないのは4件で旭区である。また、全体の内、①防災イベント告知は58件、②各家庭への防災啓発は104件、③行政政策の情報提供は33件である。横浜市全体の半分の区において、②各家庭への防災啓発が種類の高い割合を占めている。

## 3. 自主防災に関連するイベントの事例調査

### 3-1. 調査方法・結果

【方法】横浜市内を会場に行われる防災関連イベントを調査エリアとして限定し調査をする。横浜市の各区のホームページや広報誌などから情報を得て、一般に参加可能なもの出来る限り参加し調査を行った。

【結果】イベント名、開催場所、日時、内容(概要)、主催者、他参加機関、参加人数を基本情報として、参加イベントの概要を次ページの表1に示す。

また、調査した防災関連イベントの詳細なデータの一部を図2に示す。

### 3-2. 主催者へのヒアリング

防災関連イベントに参加するためには、催される日時や場所などの情報を得る必要がある。この節では一般的にどのようなイベント告知を行って開催するに至

ったのかを、主催者へのヒアリング調査によって明らかにする。次の項目についてヒアリングを行い、データシートにまとめた。データ一部を図3に示す。

- i) イベント名、主催者
- ii) 参加者の集め方、告知の方法などを具体的に。(告知方法)
- iii) 実施後、課題と感じたこと。(課題)

I) イベント名: 南区生涯学級講座	
II) 開催場所: みなみ市民活動センター	
神奈川県横浜市南区清舟町3-46 清舟複合福祉施設10階	
III) 開催日時: 2007/9/29 (土) 14:00~16:00	
IV) 参加人数: 27名	
V) 主催機関: 南区区民会議 防災分科会	
VI) 背景: 日常において、地域とのコミュニケーションが親密なほど、災害時の救援活動が円滑に行えることは市民に理解があり、広く浸透している。 南区防災分科会は、南区のまちづくりを行政との連携、連合町内会との情報共有ができる組織として、一人一人の目標になって防災環境を企画・提案するため平成17年9月に発足した。これまでの主な活動としては、起震車の体験、避難所での宿泊、野外活動の知識と実践、野外での炊き出し・炊飯と、防災活動として直接役立つイベントを提案してきた。	
VII) 目的: このイベントは、防災マップ作成の一連の作業をマニュアル化し、参加者にマップ作成の意図やその作成方法を体系的に伝えるという目的である。普段利用している自宅周辺の道を辿り、地域防災拠点までの道のりを、災害時の目標で危険箇所をくまなくチェックすることでオリジナルのマップを作成させる。 家族や近隣の方など身近な複数人で行動し、話しながら防災拠点までの道のりを歩くことで、他の人との防災意見を交換する場の提供としても期待される。	<p>IX) 内容:</p> <p>①建築設計士 荒尾 博氏による講演 ②第一回 オリジナル防災マップ作成</p> <p>9/29当日の内容: ①建築設計士 荒尾 博氏による講演 講演テーマ「助かるための最善策、地震に強い家に住もう」 ファイナンシャルプランナー兼建築士である荒尾氏の独特な視点からの講演であった。一般講演ということもあり、専門的な話には深入りせず様々な視点から住宅に住むということを考えさせられる内容であった。具体的には活断層による地震の住宅への影響、阪神淡路大震災の現在の宅地権利問題など地震・金融に関する経済的、現実的な問題とも直向した内容で直接生活に関わってくる可能性の高い大変興味深いものであった。</p> <p>②オリジナル防災マップ作成 講師 高橋 徳美氏による防災マップづくり①</p> <p>この講座における防災マップの作成は、3回に渡って行われる。この第一回は参加者の住まいの周辺地域のマップを渡し第2回までに自宅から地域防災拠点までの道のりにある危険なポイントをチェックしてくるというのが概要である。実際に街を、災害現場に見立てて歩き一軒単位で細かく調査することで見慣れた街を改めて熟知するという事も目的の一つである。防災分科会の作成した「防災マップの作成手順」に作成するマニュアルが記載されており、危険箇所の撮影や倒壊の可能性のあるブロック実測なども義務づけられている。このチェックシートの密度から防災分科会の意識の高さが表れていた。</p> <p>IX) 参加者の感想 日常生活に関わるマップ作成「楽しみながら」をコンセプトに進めているところにもとても楽しみを感じることができた。防災マップ作成に限らず、住んでいる地域について熟知することは、生活する上でとても重要なことであると思います。</p>
 <p>配付資料: 講座レジュメ、木造住宅耐震診断士派遣制度の概要、防災マップ作成の手引き、私のまちの防災マップ</p>	

図2. 参加イベント詳細データ一部

### 3-3. 考察

今日の防災に関連するイベント活動は大小規模、多数存在しており、主催者や防災イベント開催の目的によっても大きく性格が異なる。、主に主催者や知人を通して人を集めているローカルな防災イベントもあれば、広報などに告知を掲載し広く参加者を募るオーブ

- i) 日野南小学校地域防災拠点訓練  
主催者: 日野南連合自治会理事 日野南小地域防災拠点運営委員長 井出純也様
- ii) 「告知方法」毎年行っている防災訓練であり、約1800戸が当防災拠点の世帯数である。「防災訓練のお知らせ」を各戸に配布、一方、防災専用の広報誌「ひのみなみ防災だより」に掲載、広報誌「日野南連合だより」にも掲載する。
- iii) 「課題」 日常の警防活動に尽きる。拠点の正しい認識をさせる。実際の災害をシミュレートした訓練。
- i) 南区生涯学級講座  
主催者: 南区区民会議 防災分科会 高橋 徳美様
- ii) 「告知方法」防災分科会は南区区民会議を母体としていて、南区の連合町内会から単一町内会へと、参加を呼びかける事が出来た。公共機関を中心に広告を一千部配布した。
- iii) 「課題」 防災意識の低い人たちを、どのようにして防災に関心を持って貰えるようにするか。

図3. ヒアリング調査のデータ一部

んな防災イベントもあった。ヒアリング調査から、主に「防災意識」を課題として防災イベントの企画・運営に取り組んでいることが分かった。これらの課題に対する主催側の意識が、参加者の集め方やイベント内容へ反映されていると言えるだろう。

### 4. まとめ

防災関連の広報記事の件数やその内容は、区によって大きく異なり、青葉区や瀬谷区のように、比較的掲載頻度の高い地域と他区を比較すると、情報量に大きな差が生じることが分かった。

どの防災イベントも内容や構成が豊富であり、これら貴重な活動への参加は情報の伝達次第である。人々がイベントに参加するための、情報を得る過程は大切であるが、その機会が広報においても一定でないことが分かった。自主防災組織に参加していない人は情報を得る機会が限られてしまうが、そういった人たちへの情報提供は、やはり地域の力が解決の鍵を握っているのではないのだろうか。

#### 参考文献:

1. 市民参加の防災まちづくり 自治体研究社 1996
2. まちづくりを問い直す 良書普及会 1996
3. 石見 利勝 「自主防災組織とコミュニティ活動」 研究論文: 応用社会システム論1997. 10
4. 赤坂 剛 他 「住民の防災意識の構造に関する研究」 日本建築学会大会学術講演梗概集(東北)2000. 9
5. 室崎 益輝 他 「神戸市における地域防災活動の要因分析」 ~防災組織形成に関する調査研究~ 本建築学会大会学術講演梗概集(北陸)1983. 9
6. 室崎 益輝 他 「都市安全化のための地域コミュニティ活動に関する研究」 日本建築学会大会学術講演梗概集(東北)1982. 10

I) イベント名	II) 場所	III) 日時	IV) 概要	V) 主催者	他参加機関	VI) 参加人数
人口津波の実験取材	横浜黄市 港湾空港技術研究所	2007/8/28(火) 11:00~15:00	人工津波を用いたの実験についてのラジオ取材	日本放送協会、港湾空港技術研究所		15
神奈川区 社会福祉大会	神奈川区 神奈川公会堂	2007/9/14(金)	神奈川区 社会福祉大会	社会福祉法人 神奈川区社会福祉協議会	神奈川区役所	150
櫻井よしこ氏による防災講演会	関内ホール	2007/9/19(水)	櫻井よしこ氏による防災講演会	横浜市安全管理局 (横浜市防災防止協会)		500
栄区 西本郷中学校 防災訓練	栄区 西本郷中学校	2007/9/22(土) 9:30~12:00	参集訓練、役割等確認訓練、学校施設確認	栄区内自治会及び町内会、栄区役所	自治会・町内会、区役所	200
防災塾だるま	神奈川大学 1号館	2007/9/26(水) 14:00~18:00 18:00~20:00	防災塾だるまの活動報告、防災監査の運営	防災塾だるま		23
南区生涯学級講座	南区 市民活動センター	2007/9/29(土) 14:00~16:00	①建築設計士 荒尾 博氏による講演 ②第一回 オリジナル防災マップ作成	南区区民会議 防災分科会		27
日野南小学校 地域防災拠点訓練	港南区 日野南小学校	2007/10/13(土)	地域防災拠点訓練	日野南小学校地域防災拠点運営委員会	横浜市消防局	471
災害ボランティア派遣シミュレーション	磯子区 区民図書館	2007/10/15(月)	災害ネットワークの検討	磯子区災害ボランティアセンター		27
要援護者の避難システムマニュアル検討	横浜市洋光台地域ケアプラザ	2007/10/25(木)	要援護者の避難システムマニュアルの検討	横浜市健康福祉局 障がい者の防災を考える会		12
災害医療拠点病院合同災害医療対策訓練	聖マリアンナ医科大学横浜西部病院	2007/11/17(土) 8:30~13:20	病院における災害医療対策訓練	神奈川県災害医療拠点病院連絡協議会	他神奈川県内32病院	368
災害時の駅周辺の安全対策の講演	横浜市洋光台地域ケアプラザ	2007/11/22(木)	災害時の駅周辺の安全対策の講演	障がい者の防災を考える会	東日本旅客鉄道(株) 安全対策部	15
防災スキルアップ講座	屏風ヶ浦地域ケアプラザ	2007/12/7(金) 10:00~12:00	手軽にできる住宅耐震補強、大災害時の状況と重要な備え	磯子区ボランティアグループ		26
2007 防災フェア in KANAGAWA	横浜市開港記念会館	2007/12/9(日) 10:00~16:00	展示及びワークショップ、人形劇新作「福むらの火」、過去の災害に学ぶシンポジウム、カフェ・防災しゃべり場	2007 防災フェア in KANAGAWA実行委員会	中区役所 その他	122
神奈川・横浜のまちづくりシンポジウム	関東学院大学 メディアセンター	2007/12/22(土) 13:00~15:00	神奈川・横浜のまちづくりシンポジウム	地域防災研究所	ライフラインシステム普及協会	31

表1. 参加イベント概要一覧